

# 生かされた命の大切さを歌う

シンガーソングライター 歌う尼さん やなせ なな



やなせなな シンガーソングライター。  
浄土真宗本願寺派僧侶(法名・釈妙華)。

1975年 奈良県内の寺院に生まれる。  
1999年 龍谷大学文学部真宗学科卒。  
2004年 5月 シングル『帰ろう。』でデビュー。



やなせなな初のエッセイ  
「歌う。尼さん」  
発売!

詳細はこちら



美しいメロディと、やわらかくも芯のある歌声が持ち味。

30歳で子宮体ガンを克服した経験と、尼僧という立場からの視点で、生と死を見つめる癒しの歌を数多く制作。

中高年を中心に、幅広い層から確かな支持を得ている。

現在はライブハウスやホールでの演奏活動の他、エッセイの執筆や、宗派を越えた仏教系寺院でのコンサート&トーク

「歌う尼さん」として活躍中。「その声を聴くだけで自然と涙があふれ出す」

と話題になったお寺コンサートは、全国各地で成功を収め、口コミでその数を増やし続けている。

東日本大震災から一年半が過ぎた。震災後の2011年5月に東北へ、ものすごい衝撃だった。それ以降、やなせななさんは被災地東北で復興コンサートを実施している。

現在「まけないタオルプロジェクト」に参加している。巾は普通だが、長さが50cmのタオル(普通の長さは80cm)を被災地で配ったり、募金活動をしている。『まけないタオル～東日本大震災復興支援歌』

「首にも頭にもまけないタオルは震災にも負けない」とかけている。白地で負けないぞ!と書いてある。

母方の親戚がタオルを作っていて、大阪のオッチャンに今回のタオルを作ってもらった。被災者・募金者共にこのタオルを使っている。実際に使用しているのではなく、壁にはっている人が多い。最初、1万枚を作ったが、現在は5万5千枚に達した。



現在は東北のお寺の本堂を中心にコンサートをしている。色々な感想をいただく。音楽で癒された……。音楽で苦しい時を思い出した……。等等。

自分は浄土真宗の兼業寺で生まれ、小さい頃から住職になるのは普通・・と思っていた。三人兄弟の末っ子で、上ふたりは家を離れていた。法名は法名・釈妙華。

小さい頃から歌うのがすきだった。東京をはじめ、オーディションを受けて落ちること100回あまり。2004年シングルデビュー。がその後病気。

30歳の1月に、子宮体ガンと宣告された。体重が減る、下腹部から大量の出血の自覚症状があった。すぐ手術を受けたが、

術後2年間はずらかった。人の支えで立ち直った。

「子宮と卵巣をすべて摘出しなければならず、女性としてのショックは大きかったです。だから『自分にはもう音楽しかない』と、手術後はもうそればかり考えていて。そしたら今度は、音楽で支えてくれていた事務所が倒産しお世話になった人も突然いなくなった。さすがにもうダメかもしれない、と思いましたね」

そんな時、ひとりのミュージシャンの「いのちの終わりって“時計の振り子”がだんだんゆっくりになって静かに止まっていくようなもの。自分の手で振り子を止めてしまうなんておかしいと思う」と言われたのをキッカケにはっと気付かされる。そして、再び音楽の世界に情熱を燃やし、自力でなんとかCDを製作して発売までこぎつけた。しかし、コネもなく1人でがんばってもCDの売れ行きはよくなく、ライブを行ってもお客さんを集めることすら難しかった。そんな先の見えない試行錯誤が続く状況の中、大学の同級生から「お寺で講演してみないか」と声をかけられ、歌ではなく研修会をお寺で行ったことが“転機”となった。

「たくさんの人々を前に、自分のこれまで作ってきた歌の背景についてお話ししました。身近な者の死、戦争、震災、認知症、そしてガン。自らの病気体験を話したのはあの時が初めてで、歌って語る自分に耳を傾けてくれ、客席で涙ぐむ人を見て、自分がいままでやってきたことが間違っていなかったことを悟りました」

皆からは、親しみをこめて「歌う尼さん」と言われている。この一年間で、被災地には何十回も訪れている。東北へ行くと、楽しい時間が多く、嬉しくなって帰ってくる。被災地の方々は皆、元気で嬉しい!

コンサートではお坊さんの格好はしないで、普通のドレスで歌う。2012年1月「春の雪」という歌をつくった。詩と曲作りは同時に進行。

インタビューの最後に「春の雪」がフルで放送された。(ちなみにこの「春の雪」ですが、まだCDには収録しておりません。来年早々にCD化できればと考えています。本人談)